

## 和泉谷・津原古墳群調査成果の概要

- 1 遺 跡 名 和泉谷・津原古墳群（いずみたに・つはらこふんぐん）
- 2 遺跡の種類 古墳
- 3 遺跡の時代 古墳時代
- 4 所 在 地 美方郡新温泉町戸田他
- 5 調 査 面 積 約3,000㎡（県教委分約2,200㎡、町教委分約800㎡）
- 6 調 査 期 間 5月22日～9月15日（予定）
- 7 調 査 原 因 新温泉町新残土処分場整備事業
- 8 調 査 主 体 （1）兵庫県教育委員会  
（2）新温泉町教育委員会
- 9 調 査 機 関 （1）（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部  
岸本一宏副課長、西山昌孝臨時的専門職員  
（2）新温泉町教育委員会生涯学習課 田中弘樹文化財調査員

### 10 調査の概要

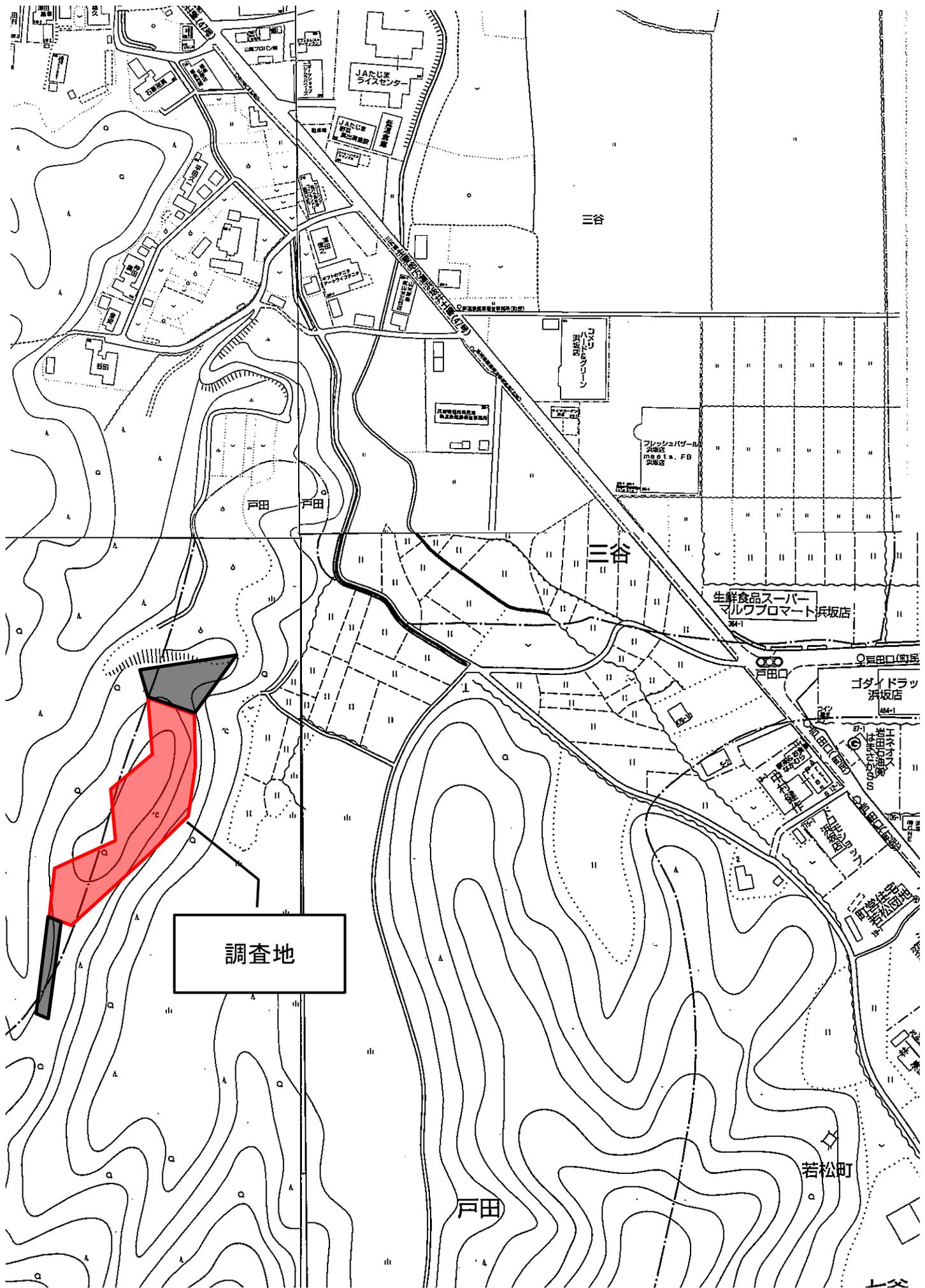
- （1）丘陵尾根上に築造された古墳10基（1～3・5～11号墳）を調査した。
- （2）古墳時代前期中頃（4世紀前半）のものは1～2号墳と3号墳下層で、溝などで区画されない高まり部分に大小5つの木棺を納めていた。最も長大な木棺は長さ約5m、小さなものは約60cmで、小さなものには子供を葬ったと判断できる。また、土師器を枕に利用して埋葬したものもある。
- （3）古墳時代中期末（5世紀末頃）のものは3・5～7号墳で、盛土と溝により墳丘を明確にした円墳で、中央にそれぞれ一つの木棺を納めていた。
- （4）古墳時代後期後葉（6世紀後葉）のものは8～11号墳で、それぞれ尾根の斜面を大きく切り盛りして階段状に造成した平坦面に木棺を納めていた。須恵器などを副葬し、枕にしていたものもある。

### 11 ま と め

- （1）調査の結果、和泉谷・津原古墳群は、古墳時代前期中頃・中期末・後期後葉の3期に、数十年から百数十年の間隔をあけて築造されていたことが判明した。
- （2）本古墳群では、古墳時代前期には自然地形をそのまま利用した無区画墓であったが、中期には盛土や溝で墳丘を際立たせ、後期には丘陵斜面を造成するといった造墓方法の変化が明らかとなった。
- （3）古墳時代前期では集団墓・家族墓といった様相であったが、中期には単一埋葬になったことにより、古墳に埋葬される階層が限定されていく時期的変化が明らかとなった。
- （4）土師器を枕とする埋葬例は、東は丹後地域から西は鳥取県までの日本海側に認められる。しかし、1号墳の埋葬施設のように、鼓形器台を使用した例は、鳥取県に例が多く、但馬では豊岡市内に1例のみであることから、古墳時代前期の但馬西端地域では鳥取県の影響が大きかったことを示していよう。
- （5）1号墳では、一つの木棺に土器枕が3点の埋葬施設があり、3体を埋葬したと判断できる。石棺墓では例があるが、木棺墓で3体の埋葬が確認できたのは少なくとも県内では初めての発見例である。
- （6）今回の調査では、17基以上の木棺墓と収納箱約4箱の遺物を発見した。

(7) 主な遺構と遺物

時代	遺構	遺物
古墳時代前期中頃	1号墳(木棺墓5)	鉄剣・ヤリガンナ、土師器
古墳時代中期末	2号墳(木棺墓1)	
	3号墳下層(木棺墓2)	
	3号墳(木棺墓1)	土師器(完形品含む)・須恵器片
	5号墳(木棺墓1)	須恵器(完形品含む)
古墳時代後期後半 (8～11号墳の埋葬施設 内容は8月10日現在の もので、発表当日には ほぼ確定の予定)	6号墳(木棺墓1)	鉄刀片、須恵器片
	7号墳(木棺墓1または2)	須恵器片
	8号墳(木棺墓-中心主体)	土師器片
	9号墳(木棺墓-中心主体)	鉄刀子、須恵器
	10号墳(木棺墓-中心主体)	
	11号墳(木棺墓)	一部のみ残存



和泉谷・津原古墳群 調査位置図



写真 1

航空写真 和泉谷・津原古墳群（手前の伐採地）



写真 4

3号墳 土器出土状況



写真 2

1号墳全景（多数の木棺検出状況）



写真 5

5号墳 土器出土状況



写真 3

1号墳 木棺内の土器枕出土状況



写真 6

9号墳全景